opusdei.org

黙想:アシジの聖フ ランシスコ(10月4 日)

黙想のテーマ: 「清貧はイエスへの道」「心の貧しさは宝物」「他者への奉仕」

2025/10/03

清貧はイエスへの道

心の貧しさは宝物

他者への奉仕

ある日、アシジの聖フランシスコが 聖ダミアノ教会で祈っていると「私 の廃れた家を見て修理しなさい」と 言う言葉を耳にしました。彼は、こ の言葉を文字通り受け取り、アシジ の近くの廃屋になっている小さな聖 堂を再建しました。後ほど、神が |家」と言われたのは、聖堂の建物 ではなく、人々、つまり当時のキリ スト者のことだと理解したのです。 そしてこの再建は、物的善からの離 脱を通して実現されることになりま す。他日、イエスの「金貨も銀貨も 銅貨も持っていってはならない|(マ タイ10・9)と言う言葉を聞いて、全 ての所有物を放りだし、福音を告げ 知らせることだけに邁進し始めたの ですா。

アシジの聖フランシスコは、とりわけ、清貧と神に至る道の深いつながりを再発見した聖人でした。私たちは皆、一人ひとりが受けた召し出しの独自性によって、この道を歩むよ

う招かれています。聖ホセマリアが 思い出させてくれます。「清貧の徳 を愛し実行しない人は、キリストの 精神を持っていないのです。これ は、砂漠の隠遁者にも、社会の中で 生きる一般信徒にも、皆に当てはま ることです | [2]。これらの人たちの 生活は、外見上、非常に異なってい るとは言え、真のキリスト教的な精 神で、清貧を生きることができま す。聖ホセマリアが、社会の中で生 きるキリスト者に、その幾つかの実 行法を示しています。必要性を生み ださない、持ち物を丁寧に扱う、何 かを手放す、良い方を他者に譲る、 不便なことを喜んで受け入れる、あ る物がない時嘆かない、などです。 同時に、一連の基準に従って生きる だけではなく、「わがままや不当な 安楽志向が入り込んでいないか、注 意するようにと語りかける心の声 | 131を聴くように勧めていました。今 日はアシジの聖フランシスコに、ど うすればキリストの傍らに導くこの

清貧の道を歩み続けることができる か教えてくれるよう、頼めるでしょ う。

「心の貧しい人々は、幸いである。 天の国はその人たちのものである| (マタイ5・3)。この言葉でイエスの山 上での説教が始まります。神である 師は、自己の安全と富を神に託す人 たちを、この世と天国で幸せにして くださいます。「この世の富に執着 しないことは、知恵であり美徳で す。全ては過ぎ去り、全ては突然終 わりになることがあるからです。し かし、わたしたちキリスト者がたえ ず求めなければならない宝は『ト に』あります。そこではキリストが 神の右の座についておられます| M. 清貧の徳は、私たちを知恵で満 たし、神の被造物との関わりを良好 なものにします。心の貧しい人は、

物事に囚われることなく、物事を楽 しみます。生活を築いていく内的な 傾向を見つけ出すことを知っている のです。時には、幸せを所有してい るものに基づかせるような、余り良 心的とは言えないこともあります。 清貧を生きることで、私たちは、多 くの物的なものによる〈確実性〉の 偽りを、また、心から満足できない 一時的な安らぎのはかなさを、見抜 くことができるようになります。要 するに清貧の精神によって、私たち は、現実を真に楽しむことができる ようになるのです。と言うのは、外 的な状況に左右されることなく、神 と共に質素に過ごすことや人々と交 わることができるようになるからで す。

アシジの聖フランシスコは清貧を 〈意中の貴婦人〉のように考え、 「彼女に心酔する人は、この世でも 天に舞い上がる軽やかさを与えられ ます。なぜなら彼女には友情、謙 遜、愛徳と言う武器があるから」 E を と、述べています。事実、時々、で は なる秘訣は、繁栄と快適 て も と き さ て た し ま う こと し れ ま す 。 人 の 経験則は 異な りま す 。 人 の 経験則は 異な ります。 人 の 経験則は 異な ります。 で は 、 現実との関わることに 気 で は よって 測られることに 気 で に よ す 。 それが 心の貧しい 人 の ま す 。

聖パウロがガラテアの信徒への手紙にしたためています。「兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい」(ガラテア5・13)。続けて二つの掟を思い出させます。「隣人を自分のように愛しなさい」(ブラテア5・14)、「石いに重荷を担いなさい」(マタイ

6·2)。清貧の徳は、他者に、何よりも最も弱い人に仕える責任をがいたがない。「家族の誰かがなったのになれ、顧みられなりしたら、気持ち、過ご民叫のおしたらない人たちでの声ない人たちはずでの声ない人たちはがあられた。真っ先に聞き届け、いはびあらを、真で、彼らと連帯しなければなりません」「60。

イエスは、この世の富で友だちを子にいか16・9参照)に弟子の富を招き、いか16・9参照)に弟子の富を他者にその富を他者を打てたるよう。他者を助けるがあるない。他者を助けたのは、他者を助けたのです。と変換があるない。と変換があるない。とのではないがない。とから手ではない。とのではない。とのでしまう」で。

これは、聖ホセマリアが多くの人た ちに見たことです。具体的な例とし て、経済的な心配の全くない老婦人 のことを話したことがあります。彼 女は「倹しい暮らしをしていまし た。ところで、家事の手伝いをして くれる人にはとても気前よくはず み、残りは貧しい人たちの救済に当 てていたのです。彼女自身はと言え ば、あらゆる欠乏に耐えていまし た。大勢の人がなんとしても欲しが るような財産家であったにもかかわ らず、個人的には貧しく、犠牲心に 富み、全てのものから離脱した心を もっていました」図。心の貧しさの うちに生きることができるよう、聖 母に助けをお願いしましょう。これ が私たちを神に導き、私たちと人々

が幸せになる道なのです。

- [1] アシジの聖フランシスコ、シエナでの遺言、4参照。
- [2] 聖ホセマリア『会見集』110番。
- [3] 同、111番。
- [4] ベネディクト十六世、「お告げの祈り」でのことば、2007年8月5日。
- <u>[5]</u> アシジの聖フランシスコ、聖フ ランシスコの小さな花、13。
- <u>[6]</u> フランシスコ、2020年6月13日 メッセージ。
- [7] フランシスコ、「お告げの祈り」でのことば、2019年9月22日。
- <u>[8]</u> 聖ホセマリア『神の朋友』123 番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/mokusou-asiji-furanshisuko/(2025/11/20)